

# 「CAOHAGAN 2050」の基本理念

自然と人が共存する新しいコミュニティの創造

## 「CAOHAGAN 2050」

### の目指すコミュニティ

#### 1 自然が、自然のままに美しく保たれているコミュニティ

a 海の自然： 世界一「生物の多様化」が進んでいる海洋に、「カオハガン島熱帯珊瑚礁保護区」をしっかりと育てる。

自然の美しさに感動していただき、「生物の多様化の大切さ」を楽しく学んでいただける場所としたい。

b 島の自然： 島のなかの「林」を保つ。植物を増やす（ココ椰子、ニーム、カムンガイ、薬草など）。

より、有機質の島とするための改良。そして、鳥類など、島固有の生物の集まる場所を育てる。

#### 2 島民が、自然の恵みに感謝をし、助け合いを基にした伝統的

な暮らしと、モラルを保ったコミュニティ

a 自然の恵みをいただき、感謝をし、助け合って暮らす島民の生き方を、できるだけそのまま保つ。

自給自足に近い暮らし。欲望を強く膨らませない暮らし。大自然の中で育つ

ているモラルを保った暮らし。

### 3 島民たち自身が自分たちで考え、島の将来に向けて行動できる社会

a 島民たち自身に、今の自分たちの暮らしはどんなものなのか、誇りがもてる暮らしなのか、そしてその将来を、自分のこととして真剣に考えてもらいたい。このことが、今後の活動で、いちばんに大切なことと考える。そのために、島民たちと、常時、話し合いを持つ。(村長、村会議員とは月に二回、島民全員とは毎月一度くらい、会議を持ちたい)

b 人口増加にどう対処するか。しっかり考え、合意をし、それをしっかりと守る。

将来に向かっての、いちばんの大きな問題だと思っています。

2050年の人口の最大上限を、240世帯、1,200人とする。絶対に、これを越えない。(現時点の、約、2倍の数字です)

「家族計画教育」を続ける。避妊の器具を、ヘルス・センターで安価で入手できるようにしておく。

島外へ、良い職場を探すことも必要になってくるかもしれない。

c 島の運営の、島民たちの手による、持続が可能な「自立」は、大きな目的である。しかし、同時に、将来に向かっての目標の設定などは、カオハガンの状況を熟知した外部の人たちと協議を重ねながら行うことも、とても重要であると考え。

### 4 島民が人的、物的、そして天然の資源を最大限活用し、暮らしのニーズを充足することができる社会

a 教育： 力と、意欲のある学生に、ハイスクール、大学で学ぶ機会を

与える「スカラシップ」を、適切に続けていく。

b 医療： 「フィルヘルス（フィリピンの国営健康医療保険）」への加盟を最大限利用した「ヘルス・センター」のしっかりした運営。

島の草木を使った伝統的な医療も、残したい。

数年先に、医学関係の卒業生を中心に「カオハガン診療所」をつくることを視野に入れ、カオハガン、そして近隣の島々の人々の保健に貢献する。

c 現在、奨学金で大学で学び卒業した若者たちのうち、3名が近隣の島の小学校で教えており、2013年6月の新学期から、そのうちの数名がカオハガン小学校で教えることになっています。また、2名が（うち1名は2013年8月ころから）「カオハガン・ハウス」の職員として宿泊施設の経営に携わっています。1名が、大学で海洋生物学を学び、「珊瑚礁保護区」の運営を担当しています。

それから、3人が医療の大学で学んでおり、近い将来、上記b)項の通り、島の医療を担当してくれるでしょう。

d 毎日の食料を得るための漁業を、若い世代にも、しっかりと引き継いでもらいたい。

e エネルギー源を、すべて、太陽光、風力、潮力などを利用してまかないたい。

まずは、2050年に、「どれだけのエネルギーを必要とする暮らしをするのか」を、島民たちと一緒に考え、決める。（必要と思われる電化製品などを。）

それに向かって、毎月島民の一家族から500ペソを徴収する。（一年間に、120家族からの合計、約150万円）。それを使って、一年毎に10の家庭に、太陽光発電の装置を設置し、エコのエネルギーだけを使った暮らしを始める。

基本的なコンセプトとしては、島民たち自身が考えたエコの暮らしを、自分たちの費用で始めることを原則とする。（費用が不足する場合は、多少の援助をすることも考えるが。）

以上の施設のメンテナンスをする技術を、島民に大学で学ばせ、管理をしてもらう。

## 5 島民の生活に適した、島民独自の持続可能な経済成長の確保。

適切な数の人たちに来ていただける、魅力のある島づくり。

a 「カオハガン・ハウス」「珊瑚礁保護区」「カフェ」などで働く人を、適切に増やす。(現在、常勤、非常勤を含めて約100名。)

b 「キルトづくり」をしっかりと育て(現在約100名)、広げていく。

c 新たに「職業訓練所」を創設する。

島近辺で採れる自然素材を使って、木工、精油、衣服、食料づくり、そして、マッサージなどを島民たちに教え、新たに、100人の若者たちのために、良いかたちの収入源をつくりだす。フェア・トレードなどを通して、日本、台湾などへの輸出も考える。

また3年後をめどに、隣のパンガナン島にこの「職業訓練所」をつくる。そして、徐々に付近の島々にも広げていく。

d 「癒しのカフェ」を運営し、それを中心に、島全体を「アーティスティックな創造に溢れる、アートに包まれた島」にして、人を呼びたい。自然、アートの癒される場、そして「むすびつき」の場としたい。

e 子どもたちへの「アート教育」をし、アーティストを育てる。

f カオハガンの自然、島民の暮らしから学ぶ、「スタディツアー」を拡充していく。

g 各家に、子どもたちのつくった表札風車、珊瑚礁保護区の四つのコーナーの海上に大きな風車をつくり、「風の島」を強調する。

h エンジンを使わない、帆(セール)を張った船を、可能な範囲で復活させたい。

i 真珠の養殖、蜜蜂を飼うことなどもやってみたい。

j 「交換」ではなく、伝統的な「贈与」の感覚を保ち続ける。与え合って、感謝をして、良い「つながり」を保ち、広げていく。

k 利殖を目的としない「ソーシャル・ビジネス」として、上記の活動のすべての利益を、この「CAOHAGAN 2050」のために使っていく。

6 外部とのつながりや学びを大切にし、双方の技術と知見を良  
いかたちで共有できる社会

a カオハガンに、2050年に向かっての、世界の理想となるような「小さなコミュニティ」を創る。

b そこに、志を持った人たちが集まり、楽しみ、語り、交歓し、むすびつく。

c それを一つの核に、世界に散らばっていった人々、その人たちが創るコミュニティが、かたく結びついて、世界の平和に貢献する。

以上のような活動を、良いかたちで多くの方々に知っていただき、  
参加、協力をお願いします。

そのために、

a すばらしいデザインの、「ホーム・ページ」を創る。

b フェイス・ブック、ツイッターなどを、良い意味で活用したい。

以上です。